

第一類 第三号

第四十三回国会 法務委員会議録 第五号

昭和三十八年二月二十六日(火曜日)

同日

委員石田宥全君及び小松幹君辞任につき、その補欠として久保田鶴松君及び飛鳥田一雄君が議長の指名で委員に選任された。

同月二十一日

委員飛鳥田一雄君及び久保田鶴松君辞任につき、その補欠として淡谷悠藏君及び横路節雄君が議長の指名で委員に選任された。

同日

委員淡谷悠藏君及び横路節雄君辞任につき、その補欠として飛鳥田一雄君及び久保田鶴松君が議長の指名で委員に選任された。

同月二十二日

委員淡谷悠藏君及び横路節雄君につき、その補欠として飛鳥田一雄君及び石田宥全君が議長の指名で委員に選任された。

同月二十六日

委員石田宥全君及び横路節雄君辞任につき、その補欠として久保田鶴松君及び赤松勇君が議長の指名で委員に選任された。

同日

委員石田宥全君及び横路節雄君辞任につき、その補欠として久保田鶴松君及び赤松勇君が議長の指名で委員に選任された。

同月二十六日

委員石田宥全君及び横路節雄君辞任につき、その補欠として白瀬仁吉君及び田中幾三郎君が議長の指名で委員に選任された。

同日

委員白瀬仁吉君及び田中幾三郎君辞任につき、その補欠として白瀬仁吉君及び片山哲君が議長の指名で委員に選任された。

二月二十日
委員飛鳥田一雄君及び久保田鶴松君辞任につき、その補欠として小松一郎君及び石田宥全君が議長の指名で委員に選任された。

第一類第三号 法務委員会議録第五号 昭和三十八年二月二十六日

第 五 号

二月二十五日

訴訟費用等臨時措置法の一部を改正する法律案(内閣提出第一二二号)商法中改正法律施行法の一部を改正する法律案(内閣提出第一二一号)(予)

裁判制度の改善及び裁判力強化に関する請願(加藤鑑五郎君紹介)(第一四一六号)

本委員会に付託された。

本日の会議に付した案件

裁判官の報酬等に関する法律の一部を改正する法律案(内閣提出第三号)

検察官の俸給等に関する法律の一部を改正する法律案(内閣提出第四号)

裁判官の報酬等に関する法律の一部を改正する法律案(内閣提出第一二二号)

裁判官の報酬等に関する法律の一部を改正する法律案(内閣提出第三号)

裁判官の報酬等に関する法律の一部を改正する法律案(内閣提出第一二二号)

給与については、一般職の給与がふえた場合はそれに準じてふやすというこ

とになって、従来そういうようになつておったのであります。この内閣委員会における修正というものが、今か

かっておる二法案に何ら影響しないものかどうか、一言お尋ねしておきま

す。

ただいまお尋ねの点でござりますが、裁判官の報酬につきましては、最も低い判事補の十号及び

簡易裁判所判事十四号が問題になるわけですが、これは一般行政職につきましては行政職の五等級の二

等級の三号までになります。修正は六等級の三号までになつておりますから

影響はございません。

なお検察官につきましては、検事十一号につきましては判事補十号と同じでありますので影響はもちらんございません。それから副検事の十二号は現

在一万九千六百円でございまして、六等級の四号に対応するものでございま

すが、これも六等級の三号まで今回の

修正がなされるわけでござりますか

でございます。

○高橋委員長 これより会議を開きま

す。

裁判官の報酬等に関する法律の一部を改正する法律案及び検察官の俸給等に関する法律の一部を改正する法律案(内閣提出第一二二号)

を議題として審査を進めます。

質疑の通告がありますのでこれを許します。小島徹三君。

○小島委員 この法案に関連しまして一言お尋ねしたいのですが、承ると

ころによりますと、内閣委員会にか

かっておった一般職の給与に関する法

案が一部修正され、初任給について五百円までふやすといふようないし

え願うのが至当であろうと思ひます。

○守田最高裁判所長官代理者 司法修習生は、一般職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律案原案によりますれば、いわゆる二万円になる。今

回の内閣委員会の修正によりまして、この二万円に相当する部分が大体百円増しになりますので、百円だけ上げる修正になるわけでございますが、これは従来から裁判官の報酬等に関する法律の附則によつて維持せられております裁判官の報酬等臨時措置法に基づく最高裁判所規則で定めるようになります。これは従来から裁判官の報酬等に関する法律の附則によつて維持せられております裁判官の報酬等臨時措置法に基づく最高裁判所規則で定めるようになります。これは従来から裁判官の報酬等に関する法律の附則によつて維持せられております裁判官の報酬等臨時措置法に基づく最高裁判所規則で定めるようになります。これは従来から裁判官の報酬等に関する法律の附則によつて維持せられております裁判官の報酬等臨時措置法に基づく最高裁判所規則で定めるようになります。これは従来から裁判官の報酬等に関する法律の附則によつて維持せられております裁判官の報酬等臨時措置法に基づく最高裁判所規則で定めるようになります。これは従来から裁判官の報酬等に関する法律の附則によつて維持せられております裁判官の報酬等臨時措置法に基づく最高裁判所規則で定めるようになります。これは従来から裁判官の報酬等に関する法律の附則によつて維持せられておりません。

○小島委員 それでは今出ておりますこの二法案をそのまま修正なしに通過させましても、内閣委員会において修正がなされたとしても、従来の慣例と申しますが、これも六等級の三号まで今回の

修正がなされるわけでござりますか

でございません。

○小島委員 それでは今出ておりますこの二法案をそのまま修正なしに通過させましても、内閣委員会において修正がなされたとしても、従来の慣例と申しますが、これも六等級の三号まで今回の

修正がなされるわけでござりますか

でございません。

従いまして、裁判官及び検察官の報酬、俸給については、今回の修正はその対等額と関係ございませんので、影響がございません。

○津田政府委員 さようでございま

す。

○高橋委員長 坪野米男君。

○坪野委員 裁判所にお尋ねしますが、そうすると、今の司法修習生の給与は、最高裁の規則で、もし内閣委員

なれば、司法修習生の給与につきましては、影響は一部あると思われます。が、この点は最高裁判所の方からお答え

会で修正されるとすれば、二万円といたるに至ることになるのですか、念のために伺います。

○守田最高裁判所長官代理者 その通りでございます。

○坪野委員 法務省並びに最高裁当局にお尋ねしたいわけですが、昨年の人事院勧告で給与改定の勧告が出まして、政府がそれに對して一般職の職員の給与の増額の法案を提出いたしております。

それによると、昨年の人事院勧告では五月一日にさかのぼってこの給与改定を行なうべし、という勧告が出されておりますが、人が承つておきたいと思います。

○中垣国務大臣 お答えいたします。

これは一般職の改定に伴いまして、そ

れに全く準じて改止したことがあつた理由であります。

○坪野委員 一般職に準じて十月一日の実施をすべきが当然であります。

が、大臣も閣議に列席される一員として、政府の立場において、人事院勧告をなぜ完全実施をせずに十月一日の実施をされたかということをお尋ねするわけです。

○中垣国務大臣 財政の都合などを考慮に入れまして、十月一日からの実施にした次第であります。

○坪野委員 そういう形式的な答弁で満足するわけではありません。もちろん、一般職の職員の給与の問題につ

いては内閣委員会で相当論議がなされましたが、一般職にせよ、あるいは裁判官、検察官の給与にせよ、あらゆるものが政府の仕事として当然のことだといふことで、きわめて遺憾に存するわけであります。特に今、臨時司法制度調査会におきまして、法曹一元化の問題と関連して、裁判官の任用制度

あるいは給与体系等について審議されておるようですが、後日あらためてこの臨時司法制度調査会における審議の模様等について中間の報告なる見解なりをお伺いしたいと思います。

が、この臨時司法制度調査会において、裁判官の給与といふような問題についてもおそらく論議の対象になつておられるだろうと思うわけであります。それが、この程度の改定で十分と考えられるだらうと思つておきたいと

あります。

○中垣国務大臣 判検事の任用とい

ますか、希望の問題は、給与だけではなくと思うのであります。改定しました給与が検事、判事の採用につきまして非常に楽になるだらうと思つたような考え方方は必ずしもまだ持つております。

おられるかどうか、法務大臣に御答弁を願います。

○中垣国務大臣 臨時司法制度調査会におきましては、任用の問題、給与問題等を含めまして法曹一元化の方向が論議されていくと思うのでござりますが、このたびの給与改定は、そういうことになつておきたいと思います。

が、このたびの給与改定は、そういうことになつておきたいと思いますが、これ

などとの関係もありまして、にわかに断じがたいわけでござります。われわれといたしましては、初任給を上げるこれが望ましいわけでござりますけれども、しかし、裁判官の報酬はやはり全体とともに体系的に考えていくべき問題

は、弁護士として事務所に入る初任給などとの関係もありまして、にわかに断じがたいわけでござります。われわれといたしましては、初任給を上げるこれが望ましいわけでござりますけれども、しかし、裁判官の報酬はやはり全体とともに体系的に考えていくべき問題

は、裁判官の報酬等に関する法律の第十一条の趣旨によりまして、一般のベーシック・アップに伴つて増加させるという

程度にとどめたわけでござります。

○志賀(義)委員 法制度調査会の結論を待たましてから

そういう問題は政府としては検討しておきたいと思います。

○高橋委員長 志賀義雄君。

○志賀(義)委員 裁判官並びに検察官の給与の問題につきましては、かねてたびたびこと数年間の国会でも問題に

なつたのであります。今度これをやりますと、どうでしようか、裁判所並びに法務省の方に伺いたいのでござります。

が、人員確保と申しますか、喜んでも来るようになるか、あるいは他と比べてその点の成算はおありなんでしょうか。

どうか、どうでしようか。よく検事になりてがないとかなんとかいろいろな話を伺いますが、そういう点はどうでしょうか。

そういう家を見せてもららうのであります。しかし、あなたのおっしゃったようなところが多いのです。そういうところだけではなく、そういう点までの御配慮がござりますか。そういうふうにいたしましたと、検事さんの方で、判事ばかり見ずに私どもの住宅を見て下さる、こういうふうにして半分引つぱらつてはどちらですか。他とのつり合いでござります。

それが、この臨時司法制度調査会において、裁判官の給与といふような問題についてもおそらく論議の対象になつておられるだろうと思うわけであります。それが、この程度の改定で十分と考えられるだらうと思つておきたいと

あります。

○中垣国務大臣 判検事の任用とい

ますか、希望の問題は、給与だけではなくと思うのであります。改定しました給与が検事、判事の採用につきまして非常に楽になるだらうと思つたような考え方方は必ずしもまだ持つております。

おられるかどうか、法務大臣に御答弁を願います。

○中垣国務大臣 臨時司法制度調査会におきましては、任用の問題、給与問題等を含めまして法曹一元化の方向が論議されていくと思うのでござりますが、このたびの給与改定は、そういうことになつておきたいと思います。

が、このたびの給与改定は、そういうことになつておきたいと思いますが、これ

などとの関係もありまして、にわかに断じがたいわけでござります。われわれといたしましては、初任給を上げるこれが望ましいわけでござりますけれども、しかし、裁判官の報酬はやはり全体とともに体系的に考えていくべき問題

は、裁判官の報酬等に関する法律の第十一条の趣旨によりまして、一般のベーシック・アップに伴つて増加させるという

程度にとどめたわけでござります。

○志賀(義)委員 なほ、この前、昨年

き調査に参ります。御承知の通り、判事は自宅で申しますか、府で当てがわれた官舎で判決を書いている。それは内閣委員会の方でやられるのですが、特にそのときに岩間委員が質問しておったのに対して、平賀説明員から

こういふ御答弁がありました。「法務局の職員が必ずしもりっぱとは言えなが、特にそのときに岩間委員が質問しておったのに対して、平賀説明員から

が非常に重大な、ときには人命にも関わるような判決を書くのに、こんなところで判決が書かれるのかといふよう

なところが多いのです。そういうところだけではなく、そういう点までの御配慮がござりますか。そういうふうにいたしましたと、検事さんの方で、判事ばかり見ずに私どもの住宅を見て下さる、こういうふうにして半分引つぱらつてはどちらですか。他とのつり合いでござります。

それが、この臨時司法制度調査会において、裁判官の給与といふような問題についてもおそらく論議の対象になつておられるだろうと思うわけであります。それが、この程度の改定で十分と考えられるだらうと思つておきたいと

あります。

○中垣国務大臣 判検事の任用とい

ますか、希望の問題は、給与だけではなくと思うのであります。改定しました給与が検事、判事の採用につきまして非常に楽になるだらうと思つたような考え方方は必ずしもまだ持つております。

おられるかどうか、法務大臣に御答弁を願います。

○中垣国務大臣 臨時司法制度調査会におきましては、任用の問題、給与問題等を含めまして法曹一元化の方向が論議されていくと思うのでござりますが、このたびの給与改定は、そういうことになつておきたいと思います。

が、このたびの給与改定は、そういうことになつておきたいと思いますが、これ

などとの関係もありまして、にわかに断じがたいわけでござります。われわれといたしましては、初任給を上げるこれが望ましいわけでござりますけれども、しかし、裁判官の報酬はやはり全体とともに体系的に考えていくべき問題

は、裁判官の報酬等に関する法律の第十一条の趣旨によりまして、一般のベーシック・アップに伴つて増加させるとい

う程度にとどめたわけでござります。

○志賀(義)委員 なほ、この前、昨年

の十二月二十日の参議院の法務委員会で、判検事以外に、裁判所及び法務省の職員が問題になりましたが、今度そ

れは内閣委員会の方でやられるのですが、特にそのときに岩間委員が質問しておったのに対して、平賀説明員から

が非常に重大な、ときには人命にも関わるような判決を書くのに、こんなところで判決が書かれるのかといふよう

なところが多いのです。そういうところだけではなく、そういう点までの御配慮がござりますか。そういうふうにいたしましたと、検事さんの方で、判事ばかり見ずに私どもの住宅を見て下さる、こういうふうにして半分引つぱらつてはどちらですか。他とのつり合いでござります。

それが、この臨時司法制度調査会において、裁判官の給与といふような問題についてもおそらく論議の対象になつておられるだろうと思うわけであります。それが、この程度の改定で十分と考えられるだらうと思つておきたいと

あります。

○中垣国務大臣 判検事の任用とい

ますか、希望の問題は、給与だけではなくと思うのであります。改定しました給与が検事、判事の採用につきまして非常に楽になるだらうと思つたような考え方方は必ずしもまだ持つております。

おられるかどうか、法務大臣に御答弁を願います。

○中垣国務大臣 臨時司法制度調査会におきましては、任用の問題、給与問題等を含めまして法曹一元化の方向が論議されていくと思うのでござりますが、このたびの給与改定は、そういうことになつておきたいと思います。

が、このたびの給与改定は、そういうことになつておきたいと思いますが、これ

などとの関係もありまして、にわかに断じがたいわけでござります。われわれといたしましては、初任給を上げるこれが望ましいわけでござりますけれども、しかし、裁判官の報酬はやはり全体とともに体系的に考えていくべき問題

は、裁判官の報酬等に関する法律の第十一条の趣旨によりまして、一般のベーシック・アップに伴つて増加させるとい

う程度にとどめたわけでござります。

○志賀(義)委員 なほ、この前、昨年

所がある。そういう点からも労働過重の緩和をはかることができる。こういふことを考えまして、機械購入費等の予算を計上いたしまして御審議を願うことになっておるわけであります。

○志賀(義)委員 ここに法務省の職員の給料袋をかきておるのでですが、最近はまた裁判所の職員の方々から給料袋をいただきました。そしてその給料袋に添えて、こういうことが書かれております。「裁判官を除く我々裁判所職員の生活は全く耐えがたいものになつており、「裁判官を除く」といっても、私は裁判官の待遇が十分だとは言ひませんし、そのことはこれまでも指摘した点でありますから明らかであります。が、続いてこう訴えております。「全く耐えがたいものになつております。それが証拠に書記官などを採用しようとしても全く応募者がないことが、この間の事情をよく物語つております。」と書いてあります。事実この給料袋を見ますと、共済組合貸付金というのを毎月借りておるのですね。これは東京地方裁判所の職員です。それを差し引くと、毎月のことですから、また足りなくなるからまた借りる、だんだん多くなつていくということになる。たとえばここには二十八才の人で、七等級四号、一万六千八百四十八円で、手取りが一万八百五十四円、つまり共済組合貸付金九千四百六十二円を借りておるからそういうことになります。交通費と家賃を払いますと、手取りが五千九百五十四円、扶養家族二人、これで一体裁判所の職員が生活できると思いますか。こういう点で裁判所の方ももう少ししかかりなさらない

と、これで頭がこんなになつて、妙な判断を下さる。それで次々に出されたり、検察官では岸信介君に返すべき証拠品を差し戻す旨の件に全部返してしまつて、大失態でございましたなんて、こういう状態だからそんなことになるのです。そういう点の改善について御努力なさるつもりかどうか、それもあわせて伺つておきました。私の質問を終わることになりました。

○志賀(義)委員 立川のアメリカ軍のキャンプで殺された日本人がおりますね。あることについて、実情はどういうことになっているか、何か法務省の方から報告を受けて下さるようにお願いしておきます。

○高橋委員長 志賀さんの御要請については、よく協議しまして、善処いたしたいと思います。

他に質疑もないようですから、これにて両案に対する質疑は終了いたしました。存じます。御異議はございませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

○高橋委員長 御異議なしと認めます。よつて、本案に対する質疑は終局いたしました。

○高橋委員長 これより討論に入ります。

討論の通告がありますのでこれを許します。坪野米男君。

○坪野委員 私は、社会党を代表いたしまして、両法案に対し反対の立場から討論をいたしたいと思います。

人事院が民間給与との格差の是正という立場から勧告を出しました。その勧告を尊重して政府が立法措置を講すべきが当然でございます。人事院勧告が必ずしも裁判官、検察官の給与の改定として満足すべきものでないということは、社会党が従来から主張して参ったところでございますが、少なくとも人事院勧告通りの実施をすべきであるにかかるわらず、実施時期を十月一日にずらして実施をしようとする本法案に対しては、われわれ社会党として

は反対であると言わざるを得ないのであります。よつて、両法案を否決すべきものと考えます。

○高橋委員長 これにて討論は終局いたしました。

これより裁判官の報酬等に関する法律の一部を改正する法律案及び検察官の俸給等に関する法律の一部を改正する法律案の両案について採決をいたします。

両案に賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○高橋委員長 起立多數。よつて、両案はいずれも原案の通り可決すべきものと決しました。

お詫びいたします。ただいま可決されました両案に対する委員会報告書の作成につきましては、委員長に御一任願いたいと存じますが、これに御異議ございませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

○高橋委員長 御異議なしと認めます。よつて、そのように決しました。

次会は公報をもつてお知らせすることとし、本日はこれにて散会いたします。

午後一時二十三分散会

〔参考〕

裁判官の報酬等に関する法律の一部を改正する法律案(内閣提出第三号)に関する報告書

検察官の俸給等に関する法律の一部を改正する法律案(内閣提出第四号)に関する報告書

〔別冊附録に掲載〕

10. The following table shows the number of hours worked by each of the 100 employees of a company. The mean number of hours worked per employee is 40 hours.

昭和三十八年三月二日印刷

昭和三十八年三月四日發行

衆議院事務局

印刷者 大藏省印刷局